

消防競技大会 消火器の部 実施要領



主催：宇部・山陽小野田防災協会

共催：宇部・山陽小野田消防局

(H28)

消 防 競 技 大 会

1 目 的

この操法は、職場における日頃の訓練の成果を競い、もって消防技術の向上を図り、火災の際の初期消火に的確、安全かつ迅速に対応することを目的とする。

2 編 成

同一事業所から男女各1名をもって1チームとする。(女性2名のチーム可)

3 服 装

競技にふさわしい服装とする。(作業服・運動着・運動靴・長靴など)

4 準備品等

(1) 保安ヘルメットを保有している事業所は準備すること。

(2) ゼッケン、その他競技に必要な器材は主催者側で準備する。

消火器の部・実施要領

1 待 機

出場チームは、進行係の指示に従い、待機線にて待機する。

2 集 合

審査員の「集まれ」の号令で集合線へ整列する。

競技進行上、次の競技チームはあらかじめ待機線にて待機する。

3 報 告

審査員の「報告」の号令により、1番員はその場で審査員に挙手注目の敬礼をした後、「〇〇チーム、ただ今から消火器操法を行います。」と報告し、挙手注目の敬礼を行う。

4 定 位

審査員の「定位につけ」の号令により、1番員は競技場図中B点に駆け足で移動し、火点側を向き停止する。2番員は競技場図中A点に駆け足で移動し、火点側を向き停止する。

5 競技開始

審査員の「操作始め」の号令により、操法を開始する。

6 操作要領

(1) 1番員

ア 伝 達

B点から駆け付け線（駆け付け線を超える）まで駆け足で進み、火点を確認する。「火事」と大声で叫ぶ。その後、駆け足でB点まで戻り、2番員（A点で待機）に対し「事務所が火事」と正対し大声で伝達する。

2番員の「事務所が火事」の復唱を確認する。

イ 消火活動

2番員の復唱を確認後、B点付近に設置している消火器を携行し、C点まで駆け付け、火点に向かい消火器で放射し消火活動を行うが、審査員の赤旗が上がるまで消火活動を行う。

ウ 重要書籍持ち出し

審査員の赤旗が上がるのを確認後、D点に置いている重要書籍を所定場所へ搬送する。この時、消火器はC点に置くものとする。

エ 競技終了後の待機場所

重要書類を所定場所へ搬送後、駆け付け線まで戻り、待機しておく。

(2) 2番員

ア 119番通報

1番員に正対し、「事務所が火事」を大声で復唱した後、模擬電話機を使用して119番通報を行う。なお、通報要領については次のとおり。

No.	受報者	2番員	内 容
1		○	119番する
2	○		「火事ですか？救急ですか？」
3		○	「火事です」
4	○		「場所はどこですか？」
5		○	「〇〇町〇丁目〇番〇〇号の〇〇事業所です」
6	○		「あなたの名前は？」
7		○	「〇〇××です」
8	○		「電話番号は何番ですか？」
9		○	「〇〇の〇〇〇〇〇です」
10	○		「よし」

イ 消火器の搬送

通報が終わり受報者の「よし」の呼称により、受話器を置き、消火器を携行し、所定の通路を通り火点へ向け駆け出す。

ウ 消火作業

C点まで駆け付け、火点に向けて、消火器を放射し消火活動を行うが、審査員の赤旗が上がるまで消火活動を行う。

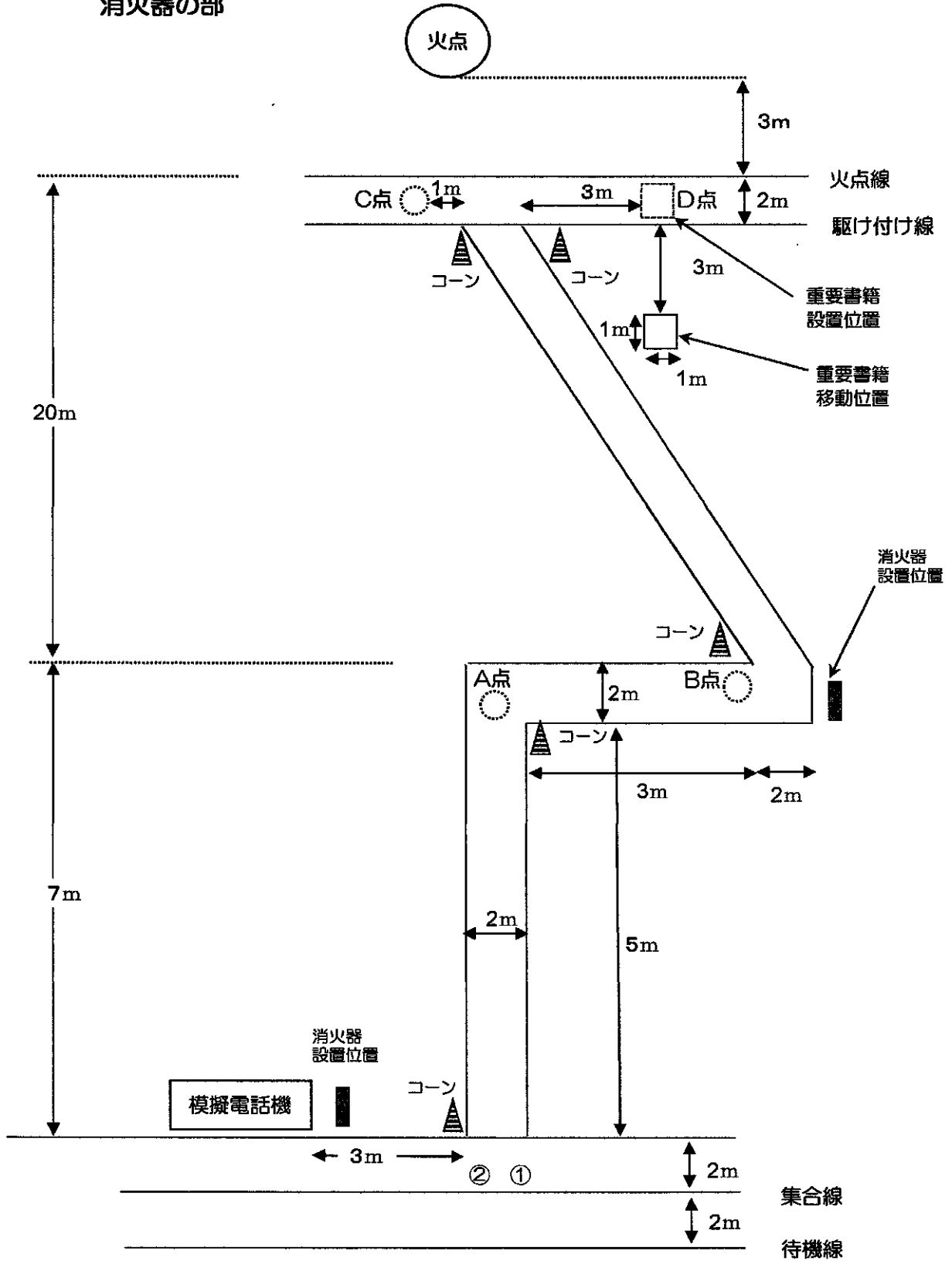
消火活動が終了後、消火器はその場に置く。

7 退 場

審査員の「競技終了」の号令で、その場から退場する。

競技場図

消防訓練研修センターグラウンド
消火器の部



採 点 方 法

1 消火器の部

(1) 計 時

ア 1番員の重要書籍移動タイム、審査員の「操作始め」の「め」から重要書籍を所定場所に移動し、書籍から手を離すまでとする。

イ 2番員の消火タイムは、審査員の「操作始め」の「め」から消火器を放射し、審査員の赤旗が上がるまでとする。

(2) 採点の方法

1番員の重要書籍移動タイム及び2番員の消火タイムは、1秒1点の減点（失点）とし、秒未満は切り上げる。

(3) 操作上の減点

操作上の減点は、審査表のとおりとする。

(4) 総失点

1番員の重要書籍移動タイム、2番員の消火タイム及び操作上の減点の合計を総失点とする。

(5) 順位の決定

総失点の少ないものを優位とし、総失点の等しい場合は、①操作上の減点
②1番員の重要書籍移動タイム③2番員の消火タイムの順に、失点の少ないものを優位とする。

2 操法の中止

(1) 出場隊員等に重大な事故が発生し、審査長が操法の継続が困難と認めたとき。

(2) その他、審査長が特に必要と認めたとき。

